

# インタビュー

18年前(当時28歳)に実家に戻って梨作りを始めました。インターネットでの情報発信や、梨加工品作り等で地元の梨を細々とPRして来ました。

そんな中、昨年に声をかけていただいたのが、副隊長の荻野さん(神川)でした。彼は様々なアイデアで地元梨産地を活発にしていきたいと熱く語っていました。

時を同じくして、新規で梨栽培を始める方や、地域を盛り上げたいといった方、行政機関の方の協力があり、梨PR隊を結成し活動が始まりました。

私は趣味が旅行で、国内外問わず旅しています。名前も知らない国や地域に憧れを抱いたのは、インター



隊長  
相川崇樹 46歳

ネットで発信された情報に興味を抱いたからです。

この梨PR隊で発信する情報を多くの方々に見てもらい、いつか海の向こうの方々が興味をもち、この地域を訪れてくれることを夢見て活動を広げていきます。

梨栽培や梨PR活動に少しでも興味をお持ちの方、ぜひ我々のSNSをご覧ください。そして一緒に活動しましょう！



副隊長  
荻野隆雄 36歳

2年前に神川に戻ってきて梨栽培の修行をしています。以前は都内で家具職人として働いていました。

約10年ぶりに地元に戻り、梨畑の数が減っている現状に驚きました。誰かがやら

なければこの風景は消えてしまふと思ひ、梨の世界に飛び込みました。

そんな中、青年農業者研究会発表会で隊長の相川さんと出会い、経営方針や考え方で意気投合しました。神川・上里の枠を超え盛り上げていきたいと、いろいろな方へ思いをぶつけていきました。そんな中、梨仲間や行政の支援もあり神川・上里の梨農家合同の梨PR隊を発足することが出来ました。

生産者の高齢化、お客さんの高齢化、畑の老木化、後継者不足等、様々な問題が複雑に絡み合い、梨の町は岐路に立っています。

今、手を打たなければ手遅れになってしまうと不安を感じています。

私はこの梨の町が好きです。この町が梨の町であるために、未熟な私ですが、指導して下さる諸先輩方、そして梨PR隊の仲間の方を借りて頑張っていきたいと思っています。どうぞ応援よろしくお願いします。



梨の専門家  
本庄農林振興センター  
農業支援部 技術普及担当

梨は埼玉県の主要な果樹であり、県内の結果樹面積は349ha(全国11位)です(農林水産省調査)。主な産地は、県東部地域(久喜市、白岡市等)、県北部地域(神川町、上里町)となっています。

ライバル産地である神川町、上里町の梨生産者が協力し合い、梨PRを行うことは画期的なことです。

このグループではSNSを活用して、梨の生育状況や梨農家の日常、地域の特色等を発信していきます。

我々も知らない情報もあり大変興味深く拝見させていただきます。梨農家のリアルな現場がわかります。ぜひご覧ください。そして梨を食べてみてください。



# Nashi PRtai



kamikaminashi

プロフィールを編集

投稿744件 フォロワー7.4万人 フォロー中7474人



kamikaminashi

7月3日(金) 梨PR隊のお披露目会を開きました。

#埼玉県 #埼玉北エリア #神川町 #上里町 #梨 #梨の町 #産地PR #観光 #冬桜 #上里サービスエリア #下久保ダム #地域おこし協力隊 #若手生産者 #こむぎっち #なっちゃん #神じい



## 梨産地の今

埼玉県の北部に位置する神川町。梨の産地としてお盆の時期から多くの直売所が開き始めます。主力品種の「幸水」をはじめ、「彩玉」「豊水」「あきづき」「新高」「新興」と様々な品種があります。神川町の梨を求め、町内の方はもちろん、遠方からお買い求めに来る方もいらつしやいます。

明治時代から始まった梨栽培ですがピーク時は120農家、66haの栽培面積がありました。しかし、生産者の高齢化・後継者不足問題等で、年々減少しており、現在はピーク時の1/3程度まで減少しています。この状況は隣の上里町でも同様です。

## 梨PR隊発足

そうした状況を危惧した梨農家が両町にいました。

「このままでは梨がなくなってしまう。毎年梨の樹が切られ、梨畑が消えていくのを見ると胸が

締め付けられる...。生産者の高齢化問題、さらにお客様の高齢化問題もあり、新たなお客様を獲得するためにはどうしたらよいか。梨産地として地域を盛り上げていくにはどうしたらよいか。」

まずは知ってもらうことから始めようと動き出しました。インスタグラムやフェイスブック等のSNSを活用した情報発信を始めました。梨の成長の様子や先輩梨農家のお話、農家でない体験できないこと等々。

その活動が他の梨農家へ伝わり仲間が集まってきました。各町の梨組合さらに行政を巻き込んだ活動が広がりました。

一人ひとりの力は小さいかもしれませんが複数集まれば大きな力になります。

今回は梨の産地である神川と上里、言わばライバル産地の生産者が手を組んだ取組やその思いを紹介いたします。